



今年の梅雨入りは早すぎる・・・コロナ禍の中での保育で外遊び・密を避ける・・・にはテラスや園庭での活動を中心に保育企画していましたが、自然は味方になってもらえない状況にため息が出てしまいます。残念ながら運動発表会は中止となり、これからの行事を考えていかないといけないのですが、子どもたちの経験・体験不足にはならないよう可能な限り「社会と関われる機会」を持ちながら保育を進めていきたいと保育の見直しを図っています。

そこで先日は、保護者の方々に協力いただき、手作りのおいしいおにぎりをもって4・5歳で磯遊びに出かけてきました。今回出かけた明石の大蔵海岸では10年前の事故から子どもたちが安心して遊べる海岸づくりを進めてこられました。磯遊びの場所も海岸がテトラポットで区切られていて、皆がゆっくり過ごせるよう工夫された海岸で安全な中でゆっくりと遊べました。

子どもたちは海風にあたりながらおいしいおにぎりを食べ、目の前で潮が引いていくのを「海の水がなくなるよ～」と不思議な現象に気付きました。「なんでかな～?」「水がなくなったらどうなるの?」と言いながらも腹ごしらえできた頃にはいい感じで潮だまりに変わっていき不思議を見つけに行動開始!

お前浜で石をそっとのけるとカニがいることを知っている子どもたちはめいめいに声をかけながら石をのけてみてびっくり!!カニの大群がワァ～と広がり、魚の赤ちゃんもたくさん隠れていました。さあ・磯遊び開始!!両手両足を使って蟹とりが始まりました。こわい～!いやだ～と躊躇していた子どももあまりの面白さに夢中になってみんなでカニとり三昧できました。



園庭遊びでは虫探し、山に行けば木々のふしぎに出会い、自然の中には不思議や発見がいっぱいです。経験の中で体や五感を使って「夢中になること」「不思議に出会うこと」は何よりの教育です。

ラグビーからお医者様になる人生を選ばれた福岡堅樹選手は小さいころ「やりたいこと」がたくさんあり、やりたいと思ったことはすべてやられたようです。その中で全てをこなすには順序だてて工夫する事・優先順位を決めて進める事などが体験の中で身についたそうです。まさにかえでの子どもたちは何でもやりたい時期です。乳児期は周りの様子から見て・まねて・やってみるから始まります。階段を上ってみる・花をちぎってみる・土や水に触れてみる・・・幼児期になるとその思いを自分で言葉にし、自分なりにどう進めていくのがよいかを考え計画していきます。そして実行した後はその次どうしていくかを振り返ってみます。自然の中で虫を捕まえたり、蛙を飼育したり、植物を育てたりする中でも自然を守るルールを身に付けていきます。苦手なことでチャレンジできなければ集団参加（自分がしなくても話を聞いたり客観的なところから様子を見ること）で経験していきます。

自ら「やってみたい」を繰り返しながら福岡選手のように自分で選択し、その出来事の優先順位を決めしっかりと進んでいくような人間になっていけることを願っています。毎日の園生活では選べる環境をたくさんしかけながらのお子様の様子を見守っていきたいと思います。

そして、これからも行事や保護者交流の行えない現状を落胆するのではなく、いろいろな場面でお子様の様子をできるだけ家庭の様子も含め伝達しあいしていきたいと思います。

今年は早くも梅雨入りしましたが、梅雨の晴れ間ではすごしやすい日もありました。緊急事態宣言が延長され、子どもたちの成長を保護者の方と共に、楽しめる機会の運動発表会が中止となりとても残念に思っています。成長のお伝えとして、お子さまの普段の様子を中心に動画作成をしています。編集する際、改めてお子さまの成長を再発見したり、何気ない動作に喜びを感じたりする場面が幾度もありました。どうぞ楽しみにお待ちください。

今回はかえで保育園の食事を紹介します。2人の栄養士がバランスの良い食事を子どもと大人合わせて約110食を作っています。離乳食は一人ひとりの成長に合わせて大きさや固さ、味付けをしています。幼児食やアレルギー食・宗教食にも対応しています。配膳するときには苦手なものがある子どもには無理強いをせず、食べられる量を調節し、時には鶏肉の皮が苦手だという子どもに確認をして取っ払いおいたりすることもあります。そのような工夫の元で、子どもはもちろんのこと、職員もお昼ごはんを楽しみにしています。誰かがおいしそうに食べているともっと食べてみたいと感じます。お家では食べない、食べてくれないということの悩みもあると思いますが「絶対食べなさい。食べてほしい」と言わなくても、いつか食べられるようになると思ってください。保育園の食事はおいしく好き嫌いもなくなるようなたくさんの魔法が入っています。暑くなっていきますが子どもたちが元気に過ごせるよう楽しくおいしい食事やおやつを提供できればと思っています。

主幹保育教諭 藤森寿美

梅雨入りも、子どもたちにとってはあそびが広がるきっかけの一つです。事務所からのぞくと、雨が降る園庭を、めばえさんやふたばさんが窓越しにじっと見つめていました。水たまりに落ちていく雫や誰もいない静かな園庭に響く水の音を聴きながら、何を思っているのでしょうか。

先日、お散歩で撮影し印刷した写真を“誰が持っておくか”という話し合いが、8人のだいち組で行われていました。どうしても写真を持っておきたいと、数名の子どもが手を挙げました。「ぼくがもちたい」「いや、わたしが」話し合いは平行線をたどり、ここで少し質問してみることにしました。「大事な写真だよ。使う時まで、この子にもってほしい、お願いしたいって友だちはいるかな？」自分以外を考えていなかった子どもたちは、戸惑いの表情です。“え…ぼく以外に…?”先程まで皆怖い顔をして自らをアピールしていたのですが、それぞれが頭の中に色々なことを思い浮かべているようでした。そして一人ずつ話を聞いてみると、「〇〇くんがいいと思う。だって、いつも友だちに優しく話してくれているから」「〇〇ちゃんかな。服とかいつもきれいに畳んでいるの知ってるもん」素敵なお話を伝えてもらった子は、嬉しいやら恥ずかしいやら…伝えたいも照れくさそうに微笑んでいます。そして気が付くと、友だちの良いところを伝え合う会になっていました。沢山の子から名前を挙げたBくん、「Bくん、信頼が厚いねえ」と声をかけると腕組をしながら「あ、あついでねえ…」と頬が緩みます。実はBくん初めは遠慮して一度挙げた手を下げていたのですが、「どうする？みんながBくんをお願いしたいって」と話すと、「まあ、そんなに言うなら…いいけど…」と嬉しそうに、役割を引き受けてくれました。「何だかこのグループ、チームワークばっちりだね」「うん！」先程まで個々の主張がぶつかりあっていた8人、話し合いを終え「このグループ、さいこー！」とスキップでお昼寝に向かう姿に、ほっこりしました。

決して“友だちに譲ることや我慢できることがすごいこと”ではなく、自身の気持ちを主張できること、表現できることもとても素晴らしい成長の一つだと感じます。その上で、今回のやりとりでは人と交わる楽しさや面白さ、それぞれの個性を認め合う喜びも感じていたように思います。

主幹保育教諭 河本彩奈

～めばえぐみ～

ねらい：「保育者とゆったり過ごす」「草花や砂など自然に触れる」

う た：「あめふりくまのこ」「かたつむり」「あめふり」 わらべうた：「いちり」

保育園での生活にも慣れ、初めは砂の感触が苦手だった子ども園庭に敷いていた、ブルーシートからゆっくり、土の世界へ冒険しようとしています。園庭にいるお兄さんやお姉さんを指さし何かを伝えてくれています。また、先生の顔を見てにこにこ笑顔。気持ちも落ち着き、色々な表情を見せてくれるようになりました。これからもたくさんの発見や自然との出会い大切をにし、興味を持てるような環境をつくり、ゆったりと過ごしていきたいと思います。

“どこに行くの？”

天気の良い日はバギーに乗って東三公園や園の周りを散歩に出かけました。初めての大きなバギーに乗る事が不安で泣いている子もいましたが、何度も繰り返しているうちに、今では気持ちの良い風を感じながら周りの景色を見れるようになりました。道でバスやトラックなど車を見て指をさしながら「あーあー」など楽しそうにお話してくれます。東三公園に着くと、色んな物を見るたびに声を上げ教えてくれます。散歩をきっかけにたくさんの物や自然に触れる機会をもっていきたいと思います。



“次ぼく、私だよ？”

毎日の習慣から少しずつ一日の流れを覚えているようです。

ご飯の時に保育者がエプロンや三角巾をつけ、ご飯のトレーを運んでくると保育者の顔を見ながら「あー」などと声を出して

「次ぼく、私だよ？」と保育者の方へ手を伸ばし抱っこを求めて

くるようになりました。食事を目の前にすると、手を合わせて「いただきます」のポーズをして

待っていたり、自ら手拭きタオルを手にのせてくれたりと食事の時間を楽しみにしているようです。



“担任の思い”

園生活にも慣れてきて周りをよく見ながら過ごしている子ども達。バギーに乗って散歩に行ったり、園庭で遊んだりする中で周りの人や自然と様々なものに興味が出てきています。これからの園生活の中でも、たくさんの楽しいことに出会い、触れることで園生活がもっと楽しくなるように、感触遊びや自然と触れる機会を保育の中にたくさん取り入れていきたいです。

日笠 加菜・西田 汐里菜・小板橋 円香

～ふたばぐみ～

ねらい：「水・泥あそびを楽しもう」

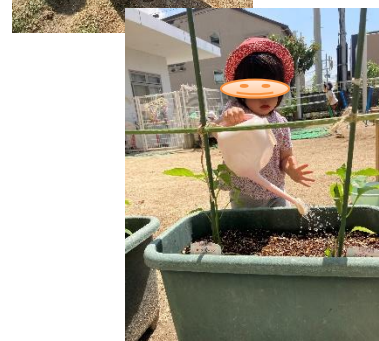
うた：「てをたたきましょう」「あめ」「かたつむり」わらべうた：「トウキョウト」

新しいお友達も保育園での生活に慣れ、毎日笑顔いっぱい過ごしています。外遊びが大好きな子ども達は園庭に出る準備も自分達でできるようになってきました。牛乳を飲んで朝の集いをして、帽子を被る流れは子ども達もよく分かっています。保育者が声を掛けなくても自分で帽子を被りベンチに座ってお友達を待っています。友だちへの意識がどんどん増えてきていますので保育者の仲立ちの中、友だちと遊ぶ楽しさをもわかってほしいと願っています。

“おさんぼたのしいな”

ふたば組になって初めての散歩にいきました。バギーの準備をしていると「どこかいくのかな」と待ちきれない様子の子も。園を出ると、車やショベルカー、葉っぱなど保育園とは違った景色を見て、自然を感じることができました。4月に入園した新しいお友だちも先生と手を繋いで歩いたり、バギーに乗ったりして初めての散歩にいきました。少しドキドキしながらも景色を見て楽しむことができました。指をさして「ぶーぶー」「はっぱ」「これなに？」など様々な事に興味深々でした。「先生の手をしっかり握ってね」と伝えると、手を離すことなくしっかり繋ぎ、最後まで歩くことができました。

保育者との会話も楽しみながら保育園の周りをぐるっと一周歩き、最後はこいのぼりを見つけて歌を歌って帰ってきました。これからも交通公園や東三公園など、たくさん散歩に行きたいと思えます。



“おおきなあれ”

めばえ組の頃はチューリップを育てましたが、今年はパプリカを育てることにしました。苗を指差し、「これなに」と興味津々の子ども達。苗を植えると、みんなで水やりをしました。水やりをお願いすると水道に一目散に向かい、じょうろに水を

入れてやる気満々の様子。水が入ったじょうろを両手でしっかり持ちパプリカに水やりをしてくれました。お友だちの様子を見て、他の子どももじょうろを持っていました。

「おおきなあれ、おおきなあれ」と声を掛けながらみんなで水やりをしました。変わった色のパプリカの苗も植えたので、何色のパプリカができるのか楽しみです。子どもたちと一緒に毎日水やりをしていくなかで成長を感じながら育てていきます。

“担任の思い”

水遊びが好きなふたば組のお友達。これからどんどん気温も上がり今まで以上に水・泥遊びがダイナミックになっていくと思います。服が汚れてしまいますが、子ども達が楽しめるよう洗いやすく乾きやすい素材を選んでいただき、洗濯のご協力をお願いいたします。雨の日は部屋でゆったり過ごすことも担任同士で話し合い、色々な経験が出来る6月を過ごしていきたいと思えます。

パプリカに水やりをして育てていく中で、成長していく喜びや達成感などを子どもたちと一緒に味わっていききたいと思います。また、パプリカが出来たときは子どもたちが野菜に興味をもてるように、遊びの中に取り入れるなど楽しめるように計画しています。

～つぼみぐみ～

ねらい：「好きな遊びを見つけて、友達と一緒に遊ぶ」

うた： かえるのうた・あめふりくまのこ・たなばた・あめ

新しいクラスにも慣れて友だちや保育者と一緒に遊んだり話したりする事を楽しんでいます。生き物に興味があり、毎日園庭ではダンゴムシやナメクジ探し、おたまじゃくしの観察に夢中です。保育者に「ダンゴムシいるかなあ？」と探したり誘ったり、「おおきいね～」「いっぱいいたね～」と思い思いに発言しています。水遊びも天気の良いと気持ちの良い気候になり、体かけたり、容器への移し替えたりを繰り返し楽しんでいます。

～つぼみ組になって初めての公園～

新しいクラスにも慣れて友だちとの関わりも沢山見られてきました。そこで、みんなで公園まで歩いてダンゴムシ探しや身体を動かすに出かけることにしました。行き道では見かける乗り物に釘付けで「トラックだ～！」「かっこいいね～」と手を繋いでいる友達や保育者と一緒に楽しく会話しながら交通ルールにも気を付けて公園まで行きました。交通公園の草むらではダンゴムシ探しに夢中で見つけると触れたり、怖いなと思っている子も側に寄って見てみたりと生き物に親しみが出てきています。公園で見つ



けたダンゴムシは保育園へ連れて帰りつぼみ組でお世話する事にしました。又東三公園では、広場で「よーいどん」と沢山走って身体を動かす事を楽しみました。園庭とは違い広々とした空間の中で身体を動かす事はとても気持ちがよく、汗だくになっても「もっかいしよ」と保育者や友達と一緒に走る事を楽しめていました。帰ってきたら、「楽しかったね」「また行こうね」と大満足でした。

～植物の栽培を始めました～

夏に向けてオクラと向日葵の栽培を始めました。準備をしていると気になる様子で「これなに？」と興味をもって寄ってくる子ども達。植木鉢に土を入れる時には保育者が「重たい」とふと発した発言を聞き逃さず持っている土を支えて手伝ってくれていましたよ。そうした相手への思いやりの気持ちをもっている事に嬉しく感じ、とても心温まるひとときでした。「やりたい！」とやる気十分で順番に種や苗を植えていきました。順番も名前が呼ばれるまで待っていたつぼみ組さん。「おおきなあれ～！」と種や苗を植えた後はそっと優しく土の布団をかけてくれていましたよ。

その後は子ども達がじょうろに水を入れて持ってきてくれました。植物には水が必要だという事をよく理解している子ども達。これから大きく成長する過程を楽しみながら、子どもたちの気付きや発見、お世話している様子を見守っていきたいと思います。



“担任の思い”

子ども達の興味のある事にいつも保育者も一緒になってやってみたり考えたりする事を大切にしています。やってみた→できた→嬉しい→皆で共に喜ぶ の経験が沢山増える事で子ども達の更なる探求心や自信へと繋がっていきます。生き物に興味があって毎日探索したり観察したりする中で、どこだったらダンゴムシが沢山いるのか、おたまじゃくしに足が生えてきたこと、そんな発見を言葉にして伝えてくれるようになりました。そうした気づきを保育者も見逃さず、一緒に遊びながらどんどん色々な事や自然の中の世界を共に楽しんでいきたいと思います。

～いぶきぐみ～

ねらい：「身体を動かし、表現することを楽しむ」

うた：「ながぐつマーチ」「あめ」

園庭のびわの実がみどり色から、やまぶき色に。そしていつのまにかぶどうの木にもふさふさの葉っぱがつき小さな実ができてきました。そんな変化にいち早く気づく子どもたち。「ぶどうのあかちゃんやで」とうれしそうに教えてくれました。そして、園庭にはたくさんの虫たちもやってきて子どもたちは大興奮！今月も園庭で子どもたちはなにを見つけてくれるのでしょうか…楽しみです。

“おさんぽ～東三公園へ”



5月に入り子どもたちの生活も徐々に落ち着いてきたころ、念願のお散歩に行けることになりました。

当日の天気は快晴。準備を整えペアのだいちさんと手をつなぐのですが、自分たちから「〇〇ちゃんは？」「〇〇くんは？」と探し、見つけるとうれしそうにかけよっていき手をつないでいました。出発するとだいちさんから「手をはなさないでね」「まえををみて」「しんごうだよ」などなどいろいろな声をかけてもらい一緒に歩きました。公園につくと、一列に並んで

よーいドン！子どもたちは歓声をあげながら思いきり走りました。そして広場につくと花壇に咲いている様々な花をみたり、かけっこ、木登り、虫探しなど思い思いに楽しんでいました。そして保育園にも咲いているシロツメクサを見つけると「指につけて」と指輪にしてとてもうれしそうでした。またお天気のいい日にみんなでお散歩に行きたいと思います。



“とうもろこし”

いぶき組で何か野菜を植えたいと思っていたところに「とうもろこし」の種がやってきました。子どもたちに種をみせると「え～これがとうもろこしのたねなの？」「ちっちゃいね」と興味津々。まずは、ポットに種を植えることにしました。土の上に種をのせ、かくれるくらいまで入れたあとはそっとやさしく土をかけ、水やりをしました。そして種をまいて



から5日目…小さな芽がでてきました。「わ！すごい！芽がでてる！」「みせてみせて」「ほんとだ」と目をキラキラさせながら喜んでいた子どもたち。もう少しポットで大きくなるまで育て、畑に植え替えていく予定です。子どもたちと一緒にとうもろこしの成長を楽しんでいきたいと思っています。



“担任の思い”

幼児部屋での生活にも慣れ子どもたちは身の回りのことを自分ですようとがんばっています。着替えなどで困っていると、つつい手助けしてあげたい気持ちが起こりますが、そこはぐっと我慢して「ここをこうしてごらん」などできるだけ自分の力でできるよう、そしてできるまで待つようにしています。できたときうれしくなり「できたね！」と一緒に喜びと子どもたちはとってもいい笑顔を見せてくれます。どんなに小さなことでも「できた」という経験をひとつひとつ積み重ねていってほしいと思います。

～ひかりぐみ～

ねらい：友達と一緒に考えてみる 表現することを楽しむ

うた：「あめ」「あめふりくまのこ」

園庭での遊び、室内での遊び、それぞれがしたい遊びを見つけて自分で選択し、お友達との関わりを楽しみながら遊ぶ姿が増えてきました。「みてみて！」と発見を共有したり、図鑑で調べてみたり、様々なことへの興味が友達との関わりの中で少しずつ広がってきています。子ども達の見つける力、知りたいと思う気持ちに驚かされることなくたくさんあります。6月もたくさんの楽しい発見ができるように子ども達のとらえる瞬間を大切にしていきたいと思います。

“いきものさがし”

気温が高くなるにつれて園庭で出会える生き物が増えてきました。園庭に出ると必ず虫探しをしている子ども達。「きょうは、はなむぐりいないなあ」「でもさっきちょうちょみつけたよ」と園庭中を駆け回りいろいろな生き物の居場所を教えあっています。5月の半ば、雨の日が続くとテラスにはなめくじの姿が…。それを見つけた子ども達は「てらすにいてもだいじょうぶなのかな」となめくじを心配そうにしていました。いつもは雨上がりに草花や木の近くで見つけるなめくじが、テラスまでやってきてしまったこと、雨が止んだ後はどうするのかと話をしている様子を見て、毎日生き物に触れる中で少しずつ生き物の命について考えられるようになってきているのかなと嬉しく思いました。その後、テラスで見つけたなめくじは園庭の木のそばまで連れて行ってあげましたよ。これからもたくさんの生き物との出会いの中で命の大切さを知ってほしいです。



“そとでたべるとたのしいね”



だいち組が園庭やテラスでお昼ご飯を食べている様子を、お部屋の中からそーっとのぞいていたひかりさん。「だいちさんはいいなあ」「ひかりさんもそとでたべたいな」という声もちらほらと聞こえていました。ひかり組は、4月からおやつを園庭で食べていましたが、やはりお昼ご飯を園庭で食べることに憧れがある様子でした。そんなひかりさんもついに、園庭でお昼ご飯を食べることができました。「今日はおそと

でごはんたべよう！」と言うと、大喜びの子ども達。しっかりと手洗いを済ませて園庭に並んで座ると「やっぱりそとでたべるとたのしいね」と嬉しそうでした。また園庭でご飯を食べることができる機会を作りたいなと思うと同時に、だいちさんへの憧れの気持ちややってみようことへの思いが深まればよいと思います。



“担任の思い”

見つけた生き物を大切にすることだけでなく、「ほら、だんごむしだよ」とふたば組のお友達に捕まえて見せてあげる姿も見られるようになり、年下の友達に優しく接してあげるお兄さん、お姉さんの表情を見せてくれます。年下の友達と接するときの表情はなんだか誇らしげな、キラキラした表情で、見ているだけでほっこりと温かい気持ちになります。異年齢での関わりを楽しむ中で、その中でしか見ることのできない子どもの表情や思いを大切に過ごしていきたいです。6月の遊びは、そんな子ども同士の間を大切にしながら集団での遊びや夏に向けてダイナミックな遊びを楽しんでいきたいです。

～だいちぐみ～

ねらい：「保育者の見守りのなか、自分で考え、やってみようとする」

うた：「あめ」「にじ」「だからあめふり」

ある日園庭のおもちゃを入れているカゴが、ブロッコリーの苗の上に倒れているのを見つけて、カゴを持ちあげて、苗を助けようとしていたAちゃん。箱の下から、苗をそっと元の場所に戻して、「あ～、よかった。」とほっとした表情でした。少しずつ新しい生活にも慣れ始めてきて、園庭の花の水やりや、生き物のお世話など、自分達で役割を持って取り組む姿も見られますが、言われたからする、のではなく、自分で気付く、やってみようとする気持ちを大切に、自分でできたことの喜びを一緒に感じていきたいです。



“自分で調べてみよう”

峰先生の地元、和歌山にはたくさんのみかんがある事を知り、様々な種類のみかんの話を聞いては、「おいしそう。たべてみたくなったよ。」と興味津々だった子ども達。

図鑑で調べていくと、葉っぱの大きさや、匂いなど、みかんによって、いろいろな違いがあることにも気づきました。

グループに分かれて、実際に調べに行くことになり、

もっと深く知ることができるよう、話し合いが始まりました。

どんな本を図書館で借りようか、マックスバリュにはどんなみかんがある？マンダリ屋さんのみかんは、どこから届く？など不思議や知りたいことはたくさんあり、グループごとに、疑問を出し合ってから出かけました。それぞれが教えてもらったこと、調べたことを、ほかのグループに発表するときは、少し緊張した様子でしたが、「へ～！そうなんだ！」「知らなかった！」と、

友達の発表を聞いて驚いていました。そして何より、自分たちで買っ

てきたみかんをみんなで食べることができた時が一番うれしそうないち組でした。



“せんせい、みててね”

最近、園庭では逆上がりがブームです。難しく諦めてしまいそうになっても、「諦めたらできへんで。何回も練習するからできるようになるねん。」と子ども同士で声を掛け合い、できるようになるまで何度も繰り返し練習しています。

それは鉄棒に限らず、野球や相撲など、強くなりたいという気持ちから、腹筋やトレーニングをしていたり、去年のだいち組が演奏していた楽譜を見て、自分の好きな楽器でチャレンジしてみたりと、やってみたいことに一生懸命で、「せんせい、みててね。」と話してくれる時の目はとてもキラキラ輝いています。

「できる」「できない」ではなく、子ども達と一緒に、一生懸命取り組んでいるときの気持ちを大切に、チャレンジする楽しさを感じることができるよう、見守っていきたいです。



“担任の想い”

大人が難しいと感じることで、毎日何度も繰り返しチャレンジする姿を見ると、子ども達の「やってみたい！」という気持ちから湧き上がる力は本当にすごい！と感じる日々です。毎日積み重ねている子ども達の努力が、自信に繋がるように、サポートしていきます。

～はま・かぜグループ～

～こっちだよ！～

あたたかくなってきた保育園に、だんごむしやちょうちょなどの虫たちがたくさん遊びに来ており、子どもたちは虫探しや虫取りに夢中です。「みてみて！」と捕まえた虫たちを笑顔で見せてくれます。

ある日、園庭で「だんごむしがいない…」と困っているいぶき組のお友達がいました。すると、「だんごむしはクローバーがすきやからこっちにおるで！」との声。その声の主はひかり組のお兄さん。早速教えてもらったクローバーがたくさん生えている方に行くと、草の根本にたくさんのだんごむしがいました。ずっと探していたダンゴムシを見つけることが出来て、とっても嬉しそうないぶき組のお友達。また、教えてあげていたひかり組のお友達も、喜んでくれたことが嬉しかったのか、一緒に探して見つけただんごむしをプレゼントしていました。



園庭に出ている時間は年上になるほど多く、虫の居場所や捕まえ方のコツなどたくさんの知識を持っています。年下の子どもたちは、年上の友達にその知識を伝授してもらっている場面をよく見かけます。ダンゴムシ、四ツ葉のクローバーなど小さな発見やきっかけで子どもたちの輪は広がるのだと感じました。これからも自然を通して子どもたち同士の関りを深めてほしいです。

～いっしょにいこう～

新しいクラスになって1か月が経ち、はま・かぜのペアのお友達と話したり、遊んだりする姿がよく見られるようになりました。ある日、いぶき組・ひかり組・だいち組のみんなで、東三公園へ散歩に出かけました。だいち組の子どもたちは、いぶき組のペアのお友達に「いっしょにいくよ～」「公園でいっしょに遊ぼうね」と声を掛け、仲良く手を繋いで公園まで一緒に歩いていきました。



東三公園に着き、「わあ、すごい！」と聞こえ、そこにはシロツメクサがいっぱい咲いていました。だいちさんはいぶきさんにすてきなお花の指輪を作り、「これどうぞ」と渡すと、「ありがとう！」とにっこり笑顔。早速指輪をはめて、いぶきさんはとても嬉しそうなお様子でした。その様子を見ていると、私自身も嬉しくなり、とても微笑ましかったです。

これから子どもたち同士のつながりがどのように変化し、深まっていくのかとても楽しみです。

“担任の思い”

園庭や室内で遊んでいるときに異年齢で関わっている場面を見かけることが多くなりました。年下の子どもたちは年上の子どもたちの遊びに興味を持って真似をしたり、一緒に遊んだりしています。また、年上の子どもたちは年下の子どもたちを気にかけて、荷物の整理や片付けのお手伝いをしてくれています。そのような姿を見ると、自分のことだけではなくしっかりと周りの友達のことも見ているのだと感じました。これからも異年齢間の関係を深めていけるよう、たくさんのきっかけ作りをしていきます。